

まちづくり

Vol. 227

(H26. 12. 8)

北海道開発局都市住宅課
まちづくり相談窓口

メールニュース

今号の
記事

- 景観シンポジウム「景観から考える北海道の食・農・観光」を開催しました
 - 「下水道産の作物」を美味しく料理
 - 道内から4事業が「公的賃貸住宅長寿命化モデル」に採択
 - 国営滝野すずらん丘陵公園ホワイトシーズン開園！
 - 頑張るまちづくり法人を募集します！
- まちづくりに関して紹介したい地域の取組、配信アドレスの変更等については、
まちづくり相談窓口(メールはこちら)まで

※配信希望は随時受け付けております。

各項目の○を
クリックすると
各項目見出しに
ジャンプします

景観シンポジウム

「景観から考える北海道の食・農・観光」を開催しました ～景観法制定10年と景観を活かした地域活性化～

国土交通省北海道開発局・北海道・土木研究所寒地土木研究所は、平成26年10月15日、札幌市内のかでる2・7で「景観から考える食・農・観光」と題したシンポジウムを開催しましたので、その概要を報告します。

このシンポジウムは、景観法公布10周年を契機に、景観を活かした地域活性化方策等について、道内の食・農・観光・まちづくりの専門家を招き、今、北海道の景観に何が期待されているか、景観を活用した取組をいかに広域的につなげていくか等、様々な視点から議論することを目的として開催しました。当日は、民間企業・団体、行政、大学などから約300名が熱心に耳を傾けていただきました。



初めに、国土交通省都市局 ^{なぎの} 榊野公園緑地・景観課長から、景観法の策定時の考えや活用状況について説明がありました。景観法に基づく景観計画策定済みの市町村は、この10年で全国平均約21%と年々増加している一方、地域別に見ると北海道や東北では全国と比べるとやや低い数値となっている状況について、地域的な特徴に自身の経験を交えながら補足。あわせて、これから景観行政を進めていく上で期待される市民の役割の重要性について、基調報告がありました。

([説明資料PDF](#))



次に、北海道大学工学部建築都市コース 坂井准教授から、誰のための景観か、何のための景観かについて話題提供がありました。

一つは「住民のための景観」。人口減少が進む中で、魅力ある地域づくりを行うには、生業が蓄積した景観を活かし、その産業の新しいあり方・見せ方が必要と説明。第1次と第3次の産業の距離が近く1次産業の規模が大きい北海道では、産業連携などによりさらなる展開の可能性を示唆。また、美しい景観は住みやすいまち、住環境の向上に繋がるとの観点から、住民自らが住む地域の価値を高める必要があると提言されました。

もう一つは「観光客増のための景観」。レンタカーによるドライブ観光客の増加により、多様なおもてなしが求められる中で、視覚のみではなく、味覚や触覚など五感で体験してもらう景観が必要と説明。日常の中にいる地域住民全員が「actor・役者」であり、非日常の中にいる観光客は「audience・観客」であること、役者は繋がりを持って増やす必要があると同時に、行政は同じ共同体としての方向性を見せるべきと提言されました。（[説明資料 PDF](#)）



その後5名のパネリストから、自らの取組を紹介していただき、そしてパネルディスカッションでは各々が持つ専門的な視点から議論が展開されました。

コーディネーターの坂井准教授からは、市民一人ひとりが取り組まなければ景観は変わらないとの問題意識から、このシンポジウムをオール北海道の作戦会議とし、ここにいる全員が「actor」となってほしいと提案がありました。

事例紹介とパネルディスカッションでは、

○鶴雅グループ 大西取締役：[説明資料 PDF](#)

阿寒アイヌコタンで観光客が景観・文化と一体となる「たいまつ行進」のイベントの工夫など、北海道でしかできない体験や郷土力を活かしたメニューや施設作り、おもてなしへのこだわり等について紹介。また、阿寒では過去、顧客ニーズに合わせて建物の高さ制限が緩和され、高層ホテルを建設した結果、商店街から阿寒湖が見渡せなくなってしまった事例や雪のない国からの旅行者が北海道の雪景色を景観とともに楽しむ過ごし方から教わった自身の経験などについて語っていただきました。



○ノースプレインファーム(株) ^{だいこく}大黒代表取締役会長：[説明資料 PDF](#)

フランスの限界集落に近い山間地を視察した際、自然景観を活かしつつ、雑草地での高地放牧と伝統的技法により生産されたチーズが世界的にも評価されていることに触発され、「オホーツク・テロワール」と称した持続可能な地域づくり活動を実践。「テロワール」とは、土壌、地形、気候、風土などを総称したフランス語。自然環境に裏打ちされた歴史文化や産業を地域で認識し、基準を定めて特産品とすること、そしてそれを次の世代へと繋げていく、農林水産業による挑戦などについて語っていただきました。



○北海道ガーデン街道協議会 林会長：[説明資料 PDF](#)

通過型の観光地だった十勝において、「十勝千年の森」と十勝地域の集客に向け、ドイツのロマンティック街道をヒントに、有名観光地であった富良野も行政区域を越えて取り込んだ「北海道ガーデン街道」を設立。見る、食べる、泊まる、運輸といった旅・移動をする観光客の行動を踏まえ、面的に連携した取組事例や連携する際に専門家と連携するよりも前に情熱を持った人と始めに連携し組織化する方策などを紹介。また、民間同士の連携に対してバックアップする行政の役割と行政間連携の重要性などについて語っていただきました。



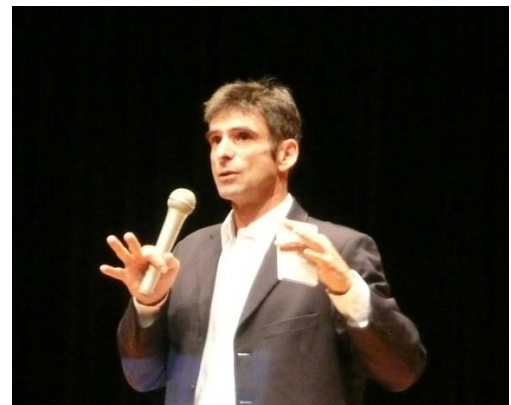
○松岡東川町長：[説明資料 PDF](#)

まちづくりを行う立場から、農村地域の「過疎」を緑と遊び空間がある価値ある疎＝「価値ある疎」とするため、自然景観や文化景観などの資源を活かし、「疎」がある町づくりビジョンを紹介。また、まだ歴史が比較的浅い北海道で、今後数百年先を見据えた景観づくり、施設づくりに関する意識を共有する必要があることを説明。最後に景観を一冊の本に例え、文字がページの隅から隅まで埋まっている本ではなく、ページに余白のある本、そしてそれが親子何代も渡って引き継がれ読まれるような本、そういう景観づくりをしたいと語っていただきました。



○(株)NAC ロス・フィンドレー代表取締役：[説明資料なし](#)

海外からの視点で観た北海道特有の景観のすばらしさと、一方で住民にとっては当たり前となり、その価値と守るべき景観に気付いていないことを説明。また、森林の新しい使い方を考えるパーク・レンジャー（自然保護官）の導入やカフェなどの施設間をスケートやクロスカントリーを使って移動できる新たな空間づくりなど、北海道の景観を観るだけでなく、もっとアウトドアライフスタイルを体験し景観の中で楽しむことができるようなアイデアについて、語っていただきました。



今回のシンポジウムは、異なる活動をしながら景観に関わりを持つパネリストの方々が語る、景観形成の重要性について、参加された皆様＝actor が気づき、仲間や組織、産業が連携することにより、オール北海道で考えていくきっかけになったものと考えています。



※出演された方々のプロフィール等については、案内の[チラシ \(PDF\)](#) をご覧ください。

「下水道産の作物」を美味しく料理 ～「BISTORO 下水道」食と下水道の連携～

国土交通省では、下水道資源である処理水や汚泥を有効利用して「食」と連携した取組を行っています。

下水処理場には、地域の水、有機物や窒素・リン、熱などが集約されており、それらは作物作りに必要な資源となります。特にリン酸肥料の主原料はリン鉱石であり、すべて輸入に依存。農業・食品に関わるリンの輸入量は年間約56万tにも及びます。

そこで、国土交通省と日本下水道協会は、下水道資源を農業に利用して循環させる、「食」と「下水道」の連携を強化する取組を「BISTORO（ビストロ）下水道」と命名し、昨年8月から「BISTORO 下水道推進戦略チーム」を設置。関係機関とともに定期的な会合を農村地で開いて、情報の共有化を図っています。「BISTORO（ビストロ）」とは、フランス語で気軽に利用できるレストランの意味です。

地域の水、資源、熱が集まった下水処理場で、①処理水、②肥料、③熱・CO₂ を利用し、作物を作る取組が全国各地で進められており、「美味しくなった」「生育が良くなった」等、農家から好評を得ている地域もあります。

① 処理水

栄養を含んだ処理水を利用した水稻



② 肥料

下水汚泥を高温発酵して肥料化



③ 熱・CO₂

CO₂をハウス内での栽培に活用



今年4月には、「食」と「下水道」の連携が一層進むよう、下水道資源を利用して栽培させた食材を用いた調理例を発掘・収集し、「レシピブック」を作成。レシピブックには、下水道再生水や再生肥料を使って栽培された「帯広市産じゃがいも」のピザや「岩見沢市産かぼちゃ」のスープのレシピを掲載。下水道汚泥由来肥料は全国的な栽培試験でも多くの野菜品目に対して、高い肥効が認められています。

この他、下水処理施設内に設置したハウス内に下水道の処理過程で排出される熱やCO₂を使って栽培された「愛知県産トマト」の「アオノリ豚こま揚げのレモンソースサラダ」や「トマトの天ぷら」のレシピを掲載。CO₂の有効利用により苗の光合成を促すとともに、窒素・リンが豊富な下水道再生水を苗に吸わせることで、化学肥料を使ったものより、糖分が高く、美味しいトマトが栽培されることも、実験の結果で明らかになりました。

「BISTORO 下水道推進戦略チーム」は、今後も下水汚泥由来肥料のイメージアップ、肥料のネーミングを含んだブランド化を図るなど、「食」と連携を通じて、下水道の可能性を探り続けます。



BISTORO 下水道レシピブックは、[国土交通省 HP](#) をご覧ください。

道内から4事業が 「公的賃貸住宅長寿命化モデル」に採択

国土交通省では、公営住宅の戦略的なストックマネジメントを実施する一環として、長期にわたり維持・活用していくことを目的に、他の事業主体の参考となるべき新たな建築技術や取組を踏まえた長寿命化改修に対して支援する「公的賃貸住宅長寿命化モデル事業」を今年度から実施しています。

この事業は、新規性や汎用性などの観点から、他の事業主体の参考となる取組であるとして、学識経験者・専門家から評価された事業に対して補助金を交付するもので、今回は7事業が採択され、道内からは稚内市、名寄市、二セコ町、本別町の4事業が採択されました。

いずれの事業も、昭和40～50年代に建設された代表的なタイプの住棟における改善であり、工法や仕様の選定にあたって、個々の事情等を踏まえた工夫をしていることや、地域特有の課題に対応した内容となっています。今後、同様の課題を抱える他の団地での改善方法の検討にあたり、参考になるものとして評価されました。

○事業主体が地方公共団体の場合・・・補助率：国 2/3 地方公共団体 1/3

団地	主な事業内容	特徴的な取組
北海道 稚内市営 末広団地	<ul style="list-style-type: none"> ・居住しながら給排水管更新 ・設備機器更新等 	<ul style="list-style-type: none"> ・居住しながら共用配管更新等による、配管等の長寿命化と居住性の向上 ・設備機器更新等による省エネ性能向上
北海道 二セコ町営 西富団地	<ul style="list-style-type: none"> ・耐用年限を超過した平屋住棟の全面的改善 ・和室の洋室化 ・水周り改善 ・断熱改修、等 	<ul style="list-style-type: none"> ・耐用年限を超過した平屋住棟の全面的改善 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>団地の高密度化の必要性が無い地域において、耐用年限を超過しても建て替えが進められない大量の平屋ストックを有効活用するモデル的な取組であり、今後普及する可能性があるとして評価された。</p> </div>
北海道 名寄市営 新北斗団地		
北海道 本別町営 向陽町団地		
兵庫県 神戸市営 楠住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震補強 ・ILBA-タ改修 	<ul style="list-style-type: none"> ・狭小敷地において、複数の手法を効果的に組合せた耐震改修による安全性の確保 ・ILBA-タ改修の際、入居者への配慮・工夫
高知県営 宇治団地	<ul style="list-style-type: none"> ・ILBA-タ設置 ・外廊下増設 ・断熱改修(住戸改善)等 	<ul style="list-style-type: none"> ・階段室撤去スペースをコミュニティの場として活用 ・1階共用廊下を省略し、コスト縮減と空間の有効利用を図る
福岡県 水巻町営 鯉口団地	<ul style="list-style-type: none"> ・ILBA-タ設置 ・住戸改善(バリアフリー化) ・断熱改修 	<ul style="list-style-type: none"> ・ILBA-タ設置と住戸改善の組合せにより合理的なバリアフリーを図る ・外壁の外断熱改修により躯体の長寿命化を図る

国営滝野すずらん丘陵公園 ホワイトシーズン開園！

国営滝野すずらん丘陵公園では、12月23日（火・祝）から『滝野スノーワールド』としてホワイトシーズンを開園しますので、お知らせします。

- 冬季開園期間 平成26年12月23日（火・祝）～平成27年3月31日（火） 予定
- 冬季開園時間 9時～16時 **年末年始も休まずオープン！**
- 入園料金 無料（駐車場は400円／1日）

国内最大級の「200mチューブそりコース」や「歩くスキーコース」など、魅力いっぱいの『滝野スノーワールド』へ、冬休みの楽しい思い出づくりにご来園ください。

なお、9月11日の大雨の影響により臨時閉園していましたが渓流ゾーンにつきましては、歩くスキーコース等、例年通りご利用いただけます。

たきのdeクリスマス（ホワイトシーズンオープニングイベント）

ホワイトシーズンオープンがクリスマス前となることから、クリスマスにちなんだクラフト作りを開催します。

- ・内 容：①松ぼっくりデコツリー作り
②ジェルキャンドル作り
③クリスマスリース作り
- ・日 時：12月23日（火・祝）①・②10:00～12:00/13:00～15:00 ③10:30～12:00
- ・場 所：①・②東ロスキーヤーズサロン ③森の交流館
- ・定 員：①30名/回 ②15名/回 ③20名（予約優先）
- ・参加費：①200円/個 ②800円/個 ③200円/個
- ・協 力：空知キャンドル倶楽部



たきのドキドキラリー

冬になると入れなくなるありの巣トンネルが、期間限定でドキドキラリー会場に変身！チャレンジしたら、ラリーカードを専用ポストに入れてね。抽選で滝野オリジナルグッズをプレゼントします！

- ・日時：12/23日（火・祝）～1/19（月）
10:00～15:00
- ・場所：ありの巣トンネルとその周辺
- ・参加費：無料 ・定 員：なし

※その他のイベント等も多数ありますので詳細は、[滝野すずらん丘陵公園HP](#)をご覧ください。

頑張るまちづくり法人を募集します！ ～第4回まちづくり法人国土交通大臣表彰の募集について～

国土交通省では、各地のまちづくりに向けた取組が一層推進されることを目指し、都市の課題解決に取り組み、地域の良好な環境や価値を維持・向上させる先進的な取組を行っているまちづくり法人を表彰するため、頑張るまちづくり法人を募集しています。

国土交通大臣賞等受賞者については、平成27年6月に開催を予定する「まちづくり月間※」の国土交通省行事において、表彰させていただくとともに、国土交通省ホームページや各種イベントにおいて広く紹介させていただきます。

※国土交通省では、昭和58年から毎年6月を「まちづくり月間」と定め、様々な行事を実施しています。

1 募集期間

平成26年12月1日(月)～平成27年2月27日(金)

2 募集対象

自治体や他の法人等が推薦する、都市の課題を解決する先進的な取組を行っているまちづくり法人（まちづくりの推進を図る活動を行うことを目的とする会社、特定非営利活動法人、一般社団法人（公益社団法人含む）及び一般財団法人（公益財団法人含む））を募集します。

3 表彰の構成

以下の3部門について、各部門の優れた取組を行っているまちづくり法人に対して国土交通大臣賞等を授与して表彰させていただきます。

- ・「まちの活性化・魅力創出部門」
- ・「まちの安全・快適化部門」
- ・「まちづくりの担い手サポート部門」

詳しくは[国土交通省 HP](#)をご覧ください。

